

# かけはし

会報91号 発行:特定非営利活動法人全国LD親の会 発行人:井上 育世  
 事務局:〒 151-0053 東京都渋谷区代々木 2-26-5 バロール代々木 415  
 TEL/FAX:03-6276-8985 E-MAIL:jimukyoku@jpald.net URL:<http://www.jpald.net/>



## 全国 LD 親の会 第 19 回公開フォーラムのお知らせ

第19回全国LD親の会公開フォーラムを下記の日程で開催します。申し込みについては、別途、ちらし・HPにてご案内いたします。

### ● 第 19 回公開フォーラム

「共生社会における多様なコミュニケーション  
 ~発達障害児者が社会とつながるために~」

日 時:2021年2月21日(日)9:40~16:00 (開場 9:10)  
 会 場:北九州市立商工貿易会館

同時 Web 配信予定

競争社会の中で、発達障害のある人は、その特性から自分の思いや考えをうまく伝えられず、孤立感を深めてしまします。人それぞれの多様な在り方を相互に認め合うためのコミュニケーションとは何か、改めて考えてみたいと思います。

### プログラム

9:45 基調講演 「発達障がいのある人が社会とつながって生きるために」

講師:西村浩二氏

(広島県発達障害者支援センター センター長)

11:15 講演「サイボーグ時代の人生戦略～社会参加のための新たなコミュニケーションツール～」  
 講師:吉藤健太朗氏  
 (株式会社オリイ研究所代表取締役)

12:00 昼休憩

13:00 講演「描くということ」  
 講師:Aju 氏 (アーティスト)

14:15 パネルディスカッション「社会とつながる方法」  
 報告 1 永浜明子氏(立命館大学 准教授)  
 報告 2 永井弘明氏(全国 LD 親の会理事)  
 報告 3 大曲千代子氏(北九州親の会「すばる」)



## コロナ禍における親の会の活動

NPO法人全国LD親の会理事長 井上 育世

全国 LD 親の会の事務所へ行くとき、品川駅から代々木駅まで山手線に乘ります。原宿駅から代々木駅までの間、東の方向を見ると、新国立競技場の工事クレーンが見える時期がありました。2020 年にはあの新国立競技場で東京オリンピック・パラリンピックが開催されると、ワクワクしながら見ていました。2 月にクルーズ船での新型コロナウィルス感染が報道され、世界的流行が話題になつても、全国 LD 親の会総会の6 月頃には状況も落ち着くのではないかと楽観的に構えていました。しかし、3 月 24 日に東京オリンピック・パラリンピックの開催延期が発表されたことで、世の中の認識も一気に傾き、親の会も 2020 年度事業変更に向けて、あたふたと動き出したのでした。

6 月 20 日に北九州で予定していた第 13 回総会は会場を変更し、書面表決による開催とし、総会後に毎年おこなつていた研修会や懇親会は中止、翌日 21 日の公開フォーラムは 2021 年 2 月に延期しました。8 月から始まる支援員養成講座も中止を決定しました。

新型コロナウィルスの感染拡大により、会員の交流も理解啓発講座も、その開催方法の変更を迫られています。しかし、ここ数年の会員減少対策として昨年から取り組んできたオンライン化を、コロナ禍が後押ししてくれているのも事実です。フォーラムや講演会のオンライン配信により、遠方の人の参加も可能になります。今、コロナ禍後の変化に必要とされるイノベーション像の模索が、社会全体で始まっています。全国 LD 親の会の活動にもイノベーションを起こしていかねばと思っています。

## 一般社団法人 日本LD学会第29回大会 報告

日 時:2020年10月10日(土)~11日(日)

大会テーマ:発達障害と教育の未来

～学びの多様性をふまえた学校づくりへ～

大会会長:宇野宏幸(国立大学法人兵庫教育大学)

今年度のLD学会は大阪国際会議場で開催予定でしたが、コロナ感染予防のため、オンライン開催となりました。大会企画シンポジウム等9講座、特別講座等14講座、自主シンポジウム40講座、ポスター発表98件がオンライン配信されました。(10月末までアーカイブ配信され、申込数は3,672人、総アクセス人数は延べ19,345人と多くの方が視聴されたとのことです。)

『オンラインの学会なんてどうなるのだろう?』とイメージできませんでしたが、実際には、希望する講座をアーカイブ配信で受講することができ、時間に追われることなく学ぶことができました。(例年は、複数の講演・シンポジウムが同時進行で開催されるため、聴きたい講座が重なると、泣く泣く一方を諦めることもありました。)

残念ながら、今年度の親の会のポスター展示・懇親会は中止となりました。コロナが収束し、また先生方や仲間と交流できる場が復活することを願っています。

### 親の会企画シンポジウム

日 時:2020年10月10日(土)12:00~14:00

テーマ:学びの多様性に応じたインクルーシブ教育

～学校と保護者との建設的対話に向けて～

司会者:井上育世(NPO全国LD親の会)

話題提供者:多久島睦美(NPO全国LD親の会)

今川 恵美子氏(大阪教育大学)

山下 峻氏(星槎国際高等学校)

指定討論:涌井 恵氏(国立特別支援教育総合研究所)

#### 【開催趣旨】

子ども一人ひとりのニーズに応じた多様な学びを提供するためには、学校と保護者の連携が不可欠です。建設的対話のための保護者・学校それぞれの工夫や取り組みについて共有したいと企画しました。

#### 【話題提供1】「保護者の立場から」 多久島睦美

学齢期の保護者の心情や相談の際に配慮してほしいポイントについてお話しさせていただきました。「障害前提で話をするのではなく、障害の有無に関わらず支援してほしい」「保護者に障害受容を強いることのないように配慮してほしい」「本人が『皆と違うことは恥ずかしい』と支援を望まない場合もあるが、周囲の子ども達がお互いの違いを認め合い、必要な支援を受けるのは当たり前という環境になって欲しい」等、お話ししました。



#### 【話題提供2】「インクルーシブ教育への取り組み～一人一人の子どもの学びや活動を支える支援や体制づくり～」 今川恵美子氏

小学校の校長を務めておられた経験から、学校での相談・支援体制についてお話しいただきました。保護者の思い・子どもの困り感を共有し、「個に応じた支援」と「お互いを認め合える集団作り」を教育の柱として、子ども同士の共感・共有を大切に「みんなでやって楽しかった」と安心できる集団作りが重要とのお話に『すべての学校がそうあって欲しい』と強く思いました。

#### 【話題提供3】「子どもfirstの学びの場」 山下 峻氏

山下先生からは、星槎国際高等学校の実践についてお話しいただきました。「子どもが学校にあわせるのではなく、多様な子どもの才能を生かすために多様な学びの場を提供している。」「保護者と問題意識を共有し、嬉しいことは共感し、苦しい時は一緒に乗り越える。」「10人ともエコひいき！」というお話が印象に残りました。

#### 【指定討論】

涌井先生より、保護者と学校のコミュニケーションのためのポイントや学校・親の会ができる具体的な取り組みについてお話しいただきました。リアルタイム配信で受講していただいた先生方からは、チャットで「保護者が受け入れてくれない場合はどうしたら良いか?」という質問が多数寄せられました。障害受容についても話題になりましたが、涌井先生の「“〇〇ができないんです”と言うより、子どものできること・良い面・嬉しいことも共有して、明るさを伴った障害受容があつても良いのではないか。」とのお話が心に残りました。子育ての経験を振り返っても、やはり子どもの良いところを認め、子どもを受け入れてくれた先生とは信頼関係が築きやすいと思いました。

話題提供の両先生からも「保護者と学校のスムーズなコミュニケーションのためには、チームで支援すること、問題が起きたら早期に対応することが大切」とのお話をいただきました。

## 新型コロナウィルス(Covid-19)感染症対策による生活状況 Web アンケート

2020年は、新型コロナウィルス(Covid-19)感染症対策により、私たちの生活も大きな変更を余儀なくされました。全国LD親の会では、生活状況の変化が発達障害児者にどのような影響を与えていたかを調べるために、会員を対象に、2回に分けてWebアンケートを実施し、回答を取りまとめました。アンケート第1弾・第2弾の回答は、弊会のHPにアップしています。

### 1、アンケート第1弾

#### 「緊急事態宣言下での状況について」

2020年4月7日から埼玉県・千葉県・東京都・神奈川県・大阪府・兵庫県・福岡県の7都府県に実施されていた緊急事態措置は、4月16日には全都道府県に拡大されました。5月25日に緊急事態解除が宣言されるまでの間、学校の休校・外出の自粛・催物の開催制限・施設の使用制限・感染防止対策等、私たちの生活は急激に変化しました。発達障害児者は環境の変化に弱いと言われていますが、緊急事態宣言中の生活状況について調査しました。

- ・アンケート期間:2020年7月15日～8月15日
- ・回答数:369件

#### 【生活面】

- ・見通しが持てない不安から問題行動が増えた。
- ・コロナ感染予防や対策について、注意書やポスターや立ち位置の足マークがあり、聞き取りに困難があるのでコロナ以前よりもとても分かりやすかった。

#### 【学習面】

- ・書くことばかりの大量の課題を少なくしてほしかった。
- ・集団生活が苦手なので、休校中は逆に落ちついていた。

#### 【仕事面】

- ・契約を更新されず自宅待機、再開の目途がたたない。
- ・在宅勤務は人との接触や満員電車の通勤のストレスがなく、仕事に集中できるため、心穏やかで落ち着いていた。

### 2、アンケート第2弾

#### 「緊急事態解除後の状況について」

新型コロナウィルス(Covid-19)感染症への対応が長期にわたる中、「新しい生活様式」は私たちの今後の生活の基本になると言われています。求められる「新しい生活様式」の中で、LD等発達障害児者がいきいきと生きていくために必要なことは何か、緊急事態解除後の生活状況について調査しました。

- ・アンケート期間:2020年9月26日～10月18日
- ・回答数:298件

回答者の子どもの世代内訳:小学生・中学生53名/高校生・専門学校生41名/短大生・大学生21名/就労準備中28名/就労中・福祉就労140名/在宅・その他15名

#### 【主な質問項目】

- I、日常生活の変化
  - 1.まめな手洗い・マスクの着用について
  - 2.買い物等で通販や電子決済が進められていく場合の情報の入手や手続きについて
  - 3.外出の際、求められている身体的距離の確保や非接触応対について
  - 4.娯楽や趣味などでの活動での身体的距離の確保やオンライン導入について
- II、学校・園の環境変化
  - 1.学校・園における感染症対策について
  - 2.休校や分散登校の影響について
  - 3.ICT教材や動画、パソコンやタブレット端末等による個別学習や同時双方向型の指導の導入について
  - 4.クラブ活動等の変化について
  - 5.進学の準備について
  - 6.就職の活動について
- III、仕事環境の変化
  - 1.緊急事態宣言解除後の仕事環境について
  - 2.雇用面や経済状況について
- IV、支援機関の環境の変化
  - 1.放課後デイサービスや発達支援サービスについて
  - 2.就労移行支援や就労継続支援の活動について
  - 3.発達障害者支援センターや障害者就労・生活支援センター、ハローワーク等の利用について
- V、政府や自治体の施策について
 

新型コロナに対する施策等に対する情報保障・給付金や補助金の申請や利用の手続きについて

◆アンケートの回答は、弊会のHPにアップしています。

### 3、オンライン研修会 「新しい生活様式」に向けて ～発達障害児者のニーズに合った生活様式～

アンケートの回答をもとに、感染症対策専門家会議が提言した「新しい生活様式」が発達障害児者にも無理なく進められていったための課題等について、会員どうし話し合いました。

日時:2020年11月21日(土)13:30～16:30

会場:ドーンセンター中会議室1+オンライン参加

参加者:会場参加9名 オンライン参加43名

新しい生活様式では、「三密回避」対策として、人とのコミュニケーションや経済活動、情報の入手等あらゆる分野でオンライン化が進められることになります。発達障害の子を持つ親としては、「苦手なコミュニケーション力が益々苦手になり、避ける方向性が加速するのではないか」「電子決済が進められていくと、何かあった時に対処できないのではないか」という点に不安に感じていることが、アンケートや研修会を通して明らかになりました。

## 全国会員の子どもの構成調査

(正会員40団体の集計)

## &lt;総括表&gt;

区分	人 数				男女比		
	男	女	合計	区分比率	前年比	男	女
未就学	10	3	14	0.7%	-44.0%	71.4%	21.4%
小学校	192	55	247	11.5%	-22.8%	77.7%	22.3%
中学校	198	42	240	11.2%	-14.6%	82.5%	17.5%
高校相当	259	56	315	14.7%	-12.5%	82.2%	17.8%
高卒相当	1,053	275	1,328	61.9%	-3.4%	79.3%	20.7%
合計	1,712	431	2,144	100.0%	-9.2%	79.9%	20.1%

## &lt;小学校&gt;

区分	男	女	計
小1	11	9	20
小2	22	7	29
小3	14	6	20
小4	37	7	44
小5	45	11	56
小6	63	15	78
計	192	55	247

## &lt;中学校&gt;

区分	男	女	計
中1	68	12	80
中2	67	9	76
中3	63	21	84
その他	0	0	0
計	198	42	240

## &lt;高校卒業相当以上&gt;

区分	男	女	計
大学・短大	129	29	158
高等専門学校4年～	7	0	7
特別支援学校専攻科	3	0	3
専門学校	34	15	49
就労(一般)(月80h以上)	177	30	207
就労(障害枠)(月80h以上)	331	62	393
パート(一般)(月80h未満)	18	13	31
パート(障害枠)(月80h未満)	15	10	25
職業訓練校・委託訓練	7	4	11
就労移行支援	59	17	76
就労継続支援 A型	33	15	48
就労継続支援 B型	87	29	116
地域活動支援センター	12	4	16
その他(自由業者・内職等)	19	10	29
無職(失業中・主婦等)	91	28	119
不明(記入無し)	31	9	40
高校卒業相当計	1,053	275	1,328

## &lt;高校相当&gt;

区分	男	女	計
高1(高専1年)	70	12	82
高2(高専2年)	79	15	94
高3(高専3年)	66	20	86
単位制高校	28	8	36
その他	11	1	12
就労・在宅等	5	0	5
高校相当計	259	56	315

## &lt;中学校&gt;

種別	人数	比率	前年対比
普通級(通級利用無し)	75	30.4%	-9.6%
普通級(通級利用有り)	45	18.2%	-38.4%
特別支援学級	108	43.7%	-23.4%
特別支援学校	9	3.6%	-35.7%
その他・不明	10	4.0%	+11.1%
計	247	100.0%	-22.8%

## ＜高校生の状況＞

	単位制以外						単位制高校						人数 計	人数 比率		
	国・公立			私立			国・公立			私立						
	全日 制	定時 制	通信 制													
普通科	47	12	1	56	0	28	4	7	3	6	1	25	190	60.3%		
専門学科 (商業・工業・農業等)	19	5	0	10	1	0	0	1	0	4	0	0	40	12.7%		
総合学科	5	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2	8	2.5%		
高等専門学校 (1~3年)	6			0									6	1.9%		
高等特別支援学校・ 特別支援学校高等部	29	0	1	1	0	0							31	9.8%		
高等専修学校	0	0	2	8	0	1							11	3.5%		
専門学校	0	0	1	1	0	0							2	0.6%		
フリースクール													0	0.0%		
その他													5	1.6%		
不明													22	7.0%		
計	106	17	5	76	1	30	4	8	3	10	1	27	315	100.0%		

	人数	比率
国・公立	143	49.7%
私立	145	50.3%

	人数	比率
単位制以外	235	81.6%
単位制	53	18.4%

	人数	比率
全日制	196	68.1%
定時制	27	9.4%
通信制	65	22.6%

## 認定NPO法人日本障害者協議会(JD) 40周年記念事業

### オンライン集会 / シンポジウム 国際障害者年前夜からの40年をたどり 未来を展望する集い

日時: 2020年12月12日(土)13:00~16:00

◆写真や映像で見るJDの40年

◆記念シンポジウム

障害者権利条約にふさわしい施策の実現をめざして

— これからの障害者施策を展望する —

・シンポジスト

「リハビリテーション分野における施策を展望する」

上田 敏(元東京大学教授・

日本障害者リハビリテーション協会顧問)

「現在の施策と未来 誰も取り残されない、医療モデル・

個人モデルに固執しない政策を」

福田暁子(全国盲ろう者協会評議員・

前世界盲ろう者連盟事務局長)

「障害者権利条約24条よりインクルーシブな社会の実現を

を目指す」

井上育世(全国LD親の会理事長)

「精神障害領域の歩みとJD40周年を土台に未来を」

増田一世(やどかりの里理事長・JD常務理事)

「障害者雇用・就労問題への取組みを中心に」

松井亮輔(法政大学名誉教授・

日本障害者リハビリテーション協会副会長・JD顧問)

・指定発言

太田修平(障害者の生活保障を要求する連絡協議会)

佐藤久夫(日本社会事業大学名誉教授)

・コーディネーター 藤井克徳(JD代表)

1976年、国連は5年後の1981年を国際障害者年と定め、各国での障害者施策の推進を求めました。この国際障害者年を機に、それまで障害種別に分かれて活動していた多くの関係団体が連携する機運が高まり、1980年4月19日、日本障害者協議会(JD)が設立されました。

JD40周年という大切な節目に、障害分野を振り返り、未来を展望する集会がオンラインで開催されました。記念シンポジウムでは、この40年変わったこと・変わっていないことについて話し合い、障害者権利条約を踏まえながら近未来の施策について展望しました。

今年の新型コロナ感染拡大は、社会の弱い部分を直撃したと言われます。しかし、そんな状況のもとで開催した今回のJD40周年集会は、次の10年の障害者団体の活動のありかたに大きな示唆を与えてくれたものになりました。

## 令和3年度予算要望書を提出

令和3年度予算編成について、6月9日付で要望書を文部科学大臣・厚生労働大臣あてに提出しました。

### 令和3年度 文部科学省関係予算要望事項

1. 通常の学級における学級規模を小さくして指導の充実を促進すること
  - ・教室内における児童生徒の間隔の確保は、教員と生徒・生徒どうしの情報伝達も疎になりがちであることから、支援員を配置し、児童生徒の学びを確かなものにすること
2. 合理的配慮を確保しつつ、インクルーシブ教育システムの充実の推進を図ること
  - ・すべての教職員に対し、特別支援教育および合理的配慮についての理解を促進すること
3. GIGAスクール構想によるICT機器の整備を進め、誰一人取り残すことのない、公正に個別最適化された学びを確立すること
  - ・ICT機器を取り入れた学齢に応じた有効な指導方法を確立すること
  - ・一人一人の学び方に応じて、学校での学習と家庭学習を連動させたICT機器の活用を図っていくこと
4. 発達障害の特性に応じた緊急時の支援対策を整備・周知すること

### 令和3年度 厚生労働省関係予算要望事項

#### 【厚生関係】

1. 発達障害者支援センターの専門相談員および職員を増員すること
2. 身近な地域での発達障害児者およびその家族に対する支援を推進すること
  - ・二次障害を予防するため、早期発見と早期発達支援を一体化して行うこと
  - ・児童発達支援事業及び放課後等デイサービス事業の支援の質の向上と支援内容の適正化を図ること
  - ・成人期以降の発達障害者(特に在宅者)とその家族への支援(地域生活支援)を拡充すること
3. 乳幼児から成人までの発達障害に対応できる医療機関を拡充すること
  - ・発達障害の専門医師の養成・研修(LDを主訴とする場合の診断研修の充実など)を行うこと
4. 発達障害者に対する情報支援体制整備の拡充
  - ・市町村役所等の窓口において、発達障害者に確実に情報が提供される環境を整備すること
  - (意思疎通支援・合理的配慮の提供等)

5. 発達障害の特性に応じた緊急時の支援対策の整備
  - ・発達障害者対象の福祉避難所の設置、緊急避難体制の確立、障害者対象の避難訓練の実施

#### 【労働関係】

1. 継続して働き続けるための支援を充実すること
  - ・ジョブコーチ、障害者就業・生活支援センターによる職場定着支援及びリワーク支援を強化すること
  - ・地域生活支援の強化、グループホーム等の拡充
2. 発達障害者に対する相談体制の整備と多様かつ効果的な職業訓練、職場実習制度を充実すること
  - ・ハローワークにおける合理的配慮(よりきめ細かな就労支援・職場定着支援)の実施を進めること
  - ・高等学校・大学等と就労移行支援機関の連携を強化すること
  - ・発達障害者の職域拡大のための訓練カリキュラムを開発・実施を進めること
  - ・企業側への実習等の受け入れを促進させる制度を構築すること
3. 発達障害者の雇用を促進すること
  - ・地域障害者職業センターにおける職場適応援助者(ジョブコーチ)の増員と研修の強化を図ること
  - ・障害者試行雇用(トライアル雇用)事業の拡充促進
4. 公的機関における発達障害者の雇用を促進すること
  - ・公的機関における発達障害者の雇用についての数値目標を達成し、働き続ける環境を設定すること
  - ・公的機関における発達障害のある人のチャレンジ雇用を推進すること
5. 雇用・就業関係機関職員や事業所に対する発達障害関係の研修を充実すること
  - ・ハローワークの職員に対する研修を充実させること
  - ・障害者就労支援機関・若年者就業支援機関の職員に対する研修を充実させること
  - ・事業所に対する発達障害者の雇用管理のノウハウの普及啓発を図ること
  - ・発達障害の特性を踏まえた効果的な支援技法や、職場における合理的配慮の提供についての理解啓発を進めること
6. 障害者就業・生活支援センター事業を拡充すること
  - ・障害者就業・生活支援センターの増設、職員の増員(生活支援ワーカーの増員)を図ること
  - ・職員の発達障害に対する研修を充実させること
  - ・職員の長期的展望に基づく育成、待遇改善を図ること

## 関東・東北ブロック オンラインフリートーク(情報交換会)

日 時:2020年9月26日(土) 13:30~16:00

会 場:Zoomによるオンライントーク

関東・東北ブロックは14の会で構成され活動しています。9月26日に10会19名の役員が参加して、「コロナと親の会の活動について」「親は非加入、成人本人だけが親の会に入会参加することについて」という2つのテーマで、オンラインによるフリートーキングを行いました。

### ◆テーマ1:「コロナと親の会の活動について」

各会とも、コロナ禍で3月から緊急事態宣言解除される5月末までは対面式の活動は中止した。緊急事態宣言中は新年度移行の時期であり、総会は書面で行った会が殆どで、開催しても役員のみで開催した。緊急事態宣言中の会の活動は、会報だけは発行した会は会員の支えとなつたが、ほとんどの会は活動していないので会報も中止であった。

再開した活動は人数制限したり、リモートに変えたりした。一部の会では、コロナ禍の在宅生活が影響したのか、小中学生の入会が増えるという現象もおきた。リモート会議の手段として、全国LD親の会では、昨年度からZoomを利用しており、コロナを機に各ブロック・各会への利用の拡大を目指している。しかしながら、各会の利用となると、Zoomは苦手な方が多く、使いこなしている会もあれば苦手意識が強い会もある。ラインでのおしゃべり会やラインのチャットでのやりとりや相談を受けたりしている会もある。「Zoomは長くなると疲れる」「夜は家族がいるのでZoomだと集中できない」などの声もあるが、Zoomやラインに慣れていかなければと思っている。また、「移動の時間や交通費もかけず便利だが、やはり対面での良さもある」という意見もあった。Zoomを会独自で契約し講演会を計画している会もある。全国LD親の会で契約しているZoomを希望会は利用出来ること、皆さんにはまずはZoomに慣れて欲しいことを共有した。

### ◆テーマ2:「成人本人だけの親の会入会について」

テーマ2では、事前調査として「地域に成人本人の会があるか」「成人本人だけ(親は非加入)の入会を認めているか」の2点を各会に尋ねました。成人本人の会は、ブロックの中で9つの都県から設立確認が報告されました。

また、親は非加入なのに成人本人だけの加入を認めている会は、ブロック内14会の中で1会だけでした。

成人本人のみの加入を認めない理由としては、「本人の障害の程度を把握できないと、連絡等の対応が難しい」「話を少し伺う程度なら構わないが、親と本人の視点は異

なる」「本人からの問合せには、成人本人の会や関係機関を紹介する」等が挙げられました。入会を認めている理由は、「成人本人のお子さんにも発達障害があると分かった為、結果的に本人が親という会員条件を満たしていた」「会員が病気や高齢を理由に退会することになったが、会員の子ども(成人)は会に残りたい様子だったので、賛助会員や通信会員に変更することを打診した」等でした。

成人本人だけの入会を認めれば、「会の中に本人の親がいないので、親に遠慮することなく、親子問題について意見を聞くことができる」「親のサポートなしで活動する成人本人を目の当たりにできるので、今後の参考になる」等のメリットがあるようですが、「親同士で話したいのに、成人本人が参加すると、本音を言えない」「成人本人が参加すると、障害特性ゆえトラブルになる(ドタキャン・対人関係が困難)」「若い親が、自分の年齢とさほど変わらない成人本人達と交流できるか難しい」等のデメリットも指摘されました。成人本人だけの入会にあたっては、各会でよく精査することが望まれます。

最後に、本人達だけで『成人本人の会』を運営維持していくかについて、意見を伺いました。参加者からは、「成人しているなら、本人の自立を促すために、親は干渉せず、専門家に委ねたい」「本人達で決めたことを尊重しながら、計画が進展しない時は、誰かのサポートが必要」「専門家に任せてもトラブルはあるので、本人達を見守り、支援者を支え育てるという意味で、親がちょっとしたお手伝いができると良い」「我が子の問題だと感情的になってしまふが、個人ではなく親の会という立場なら、程よい距離感で成人本人の会と、交流できるかもしれない(細く、長く、緩いお付き合い)」等の意見が挙がりました。また、全国LD親の会の関与を期待する声もありました。親が活動できなくなり、我が子に力を貸せなくなる時は、必ずやってきます。親の会のイベント等で、我が子の居場所(娯楽や交流)を確保しても、親が退会すれば我が子は居場所を奪われてしまいます。個々の対応を越えて、親の会として成人本人達に何をしていくべきか、考える良い機会になりました。



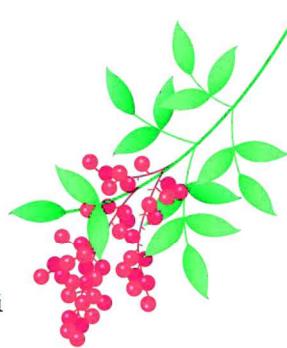
## 一般社団法人 日本発達障害ネットワーク（JDDネット）より

**■ ダイナミックサインについてニーズ調査への協力**  
 9月11日(金) JDDnetからの依頼により、産業技術総合研究所および三菱電機(株)が共同開発しているダイナミックサインに関する聞き取り調査に協力しました。ダイナミックサインは、主に建物内の出入り口やトイレなどの情報を状況に合わせて映像や音声で提示する方法です。ヒアリングでは、発達障害児の特性から、動くサインや音声が必ずしも発達障害児・者への情報伝達方法として有効ではない場合もあることを具体例を挙げて提示し、今後の開発への参考になるとの評価をいただきました。

**■ 第16回年次大会（オンライン開催）**  
 日 時: 2020年12月6日(日) 18:00～21:00  
 テーマ: 発達支援における多様性の尊重と受容  
 　～ダイバーシティ・インクルージョンを目指して～  
 講演(18:20～19:40)  
 　田中哲氏(子どもと家族のメンタルクリニックやまねこ)  
 　星山麻木氏(明星大学教育学部)  
 　シンポジウム(19:50～20:55)  
 　指定討論: 市川宏伸(JDDnet 理事長)  
 　ファシリテーター: 藤原里美(チャイルドフッド・ラボ所長)

### ● NPO法人全国LD親の会 活動報告

- 4月14日 全国LD親の会会報「かけはし」第90号発行
- 4月24-27日 2019年度事業監査
- 5月02日 第43回理事会(電磁的記録によるみなし決議)
- 6月09日 文部科学省・厚生労働省へ要望書提出
- 6月20日 第13回NPO法人全国LD親の会総会
- 6月21日 JDDnet 第10回総会議決権行使
- 7月15日～8月15日 新型コロナウィルス対策による生活状況 Webアンケート第1弾
- 9月26日～10月18日 緊急事態宣言解除後の生活状況 Webアンケート第2弾
- 10月10日 日本LD学会第29回大会 親の会企画シンポジウム
- 11月21日 全国会員研修会(会場およびWeb開催)



### ● 第42回理事会報告

・出席者: 理事 5名

理事会の決議があったとみなされた日時: 2020年3月29日 20:00-30日 10:05

開催場所: 電磁的記録によるもの [決議](1)新型コロナウィルス感染拡大により、第19回公開フォーラムを延期する。  
 (2)第13回総会の開催を下記の通り変更し、総会当日の研修会・全国青年交流会を中止とする。

日時: 2020年6月20日(土) 10:00～11:15 場所: ドーンセンター中会議室2

### ● 第43回理事会報告

・出席者: 理事 5名

理事会の決議があったとみなされた日時: 2020年5月2日 11:00-12:50

開催場所: 電磁的記録によるもの [決議] (1)2020年度活動方針及び予算案について、全員一致で同意した。  
 (2)第12回通常総会に付議する議案について、全員一致で同意した。第1号議案: 2019年度事業報告(案)  
 第2号議案: 2019年度決算報告(案) 第3号議案: 2020年度役員(案)

### ● 第44回理事会報告

・出席者: 理事 5名

理事会の決議があったとみなされた日時: 2020年6月20日 12:30-23:20

開催場所: 電磁的記録によるもの [決議] (1) COVID-19感染対応による特別支援教育支援員養成講座in大阪の開催中止のため、第43回理事会において決議した2020年度事業計画案および予算案を修正する。  
 (2) 第28回評議員会における審議結果を審議し、全員一致でこれを承認した。

### 特定非営利活動法人全国LD親の会 第13回総会報告

日時: 2020年6月20日(土) 10:00～11:00 場所: ドーンセンター オンライン配信

総数40加盟団体中、出席2団体、議決権行使35団体、委任状提出3団体、欠席0団体参加の中、  
 第1号議案～第3号議案のすべての議案が満場一致をもって異議なく承認されました。

【審議事項】 第1号議案 2019年度事業報告 第2号議案 2019年度決算報告および監査報告  
 第3号議案 2020年度役員選任(案)